

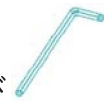
第5章 実践事例

これより、13件の事例を紹介します。児童生徒の困難さや原因を正しく把握し、効果的な支援を行っていただくための参考にしてください。

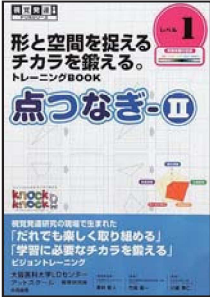
実際に、徳島県内の通級による指導で行われた内容を基にして作成しています。

カテゴリ	テーマ
発音、読む	事例1) 側音化構音の児童への支援
	事例2) 構音につまずきのある児童への支援
	事例3) すらすらと音読することが苦手な児童への支援
聞く・話す	事例4) 話を聞くことが苦手な児童への支援
読み書き	事例5) 特殊音節を書くことが苦手な児童への支援
	事例6) 語彙数が少なく、読み書きが苦手な児童への支援
	事例7) 文字・文章を書くことが苦手な児童への支援
注意・集中	事例8) 注意・集中が苦手な児童への支援
コミュニケーション	事例9) コミュニケーションが苦手な児童への支援
感情のコントロール	事例10) 気持ちのコントロールや切り替えが苦手な児童への支援
	事例11) 怒りを抑えることが苦手な児童への支援
対人関係	事例12) 自己理解・他児との円滑な人間関係を築くことが困難な児童への支援
	事例13) 対人関係がうまくいかずトラブルを起こす生徒への支援
実践紹介	徳島中央高等学校の通級による指導

事例Ⅰ) 側音化構音の児童への支援	
プロフィール	小学1年, 正しく発音できない音がある。
主な困難さ	・イ列音が側音化構音, シ→ヒ, チ→キ, ジ→ギに変化する。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●体ほぐしの活動	・ボウリング, シャボン玉, 風船バレー, ストラックアウト, じんとりじゃんけん, こままわし, 卓球 ※導入部分で, 児童が楽しんで取り組めるような運動・動作を取り入れることで, リラクゼーションと準備を整える効果が期待される。
●機能訓練	○口の体操 ・口形模倣, 舌の動きの練習 ※側音化構音は口の中央から呼気を吐き出そうとしても, 両端から漏れ出ることが問題です。次の吸う・吹く of 活動に入る前の口の基本的な動かし方の練習をする。 ○ストローを使って吸う・吹くゲーム ・キャラクターの的をストローで吸う・吹く ・ストローで呼気を口の中央から出す練習 ・ストローサッカーやストローを使った風船遊び ・適宜, 鼻息鏡で呼気の出方をチェック ※児童が楽しめそうな活動内容にすることで, 余計な緊張をさせないように, 配慮するとともに, 適宜, 途中で鼻息鏡を用いて, 呼気が正しく出せているかどうかを確認する。 ○聞き取り○×問題 ※発音だけの問題ではなく, 教員から発せられる言葉を正しく聞き取ることができるのか聞こえの確認をとることも大切である。 ○「し」「ち」「ひ」「き」のつく言葉の聞き取り, 読みの練習 ※特に苦手なイ列音を中心とした単語や文章の聞き取りや読みの練習を行い, 改善のための練習を行う。
その他, 指導のポイント	
・児童が構音の練習をする時の口元をよく見て, 左右の口角の引き具合が対称になっているか確かめながら行う。 ・側音化構音の場合, 口元をあまり動かさない傾向があり, しっかり口を開けて練習するように言葉を掛ける。 ・ストローを使った呼気の練習の際は, 教員は児童の隣に座って指導を行う。鼻息鏡で息の出方を確かめ, ストロー練習の後で改善していることに気付くことができるように配慮する。	



事例２）構音につまずきのある児童の支援	
プロフィール	小学２年，正しく発音できない音がある。
主な困難さ	・ ツ音→チュ音，ザ行音→ジャ行音に置換，ラ行音とダ行音混同する。 ・ ニ語文以上の文章を一度で聞き取ることが難しい。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●粗大／微細運動 ●構音器官機能を高める練習 ●聞き取り練習 ●発音練習 ●書き取り練習	・ ケンケンパ，やじるし体操，指の運動 ※準備運動・態勢を整える目的で，児童の興味・関心に見合った楽しい活動内容を取り入れる。  ○口と舌の体操，舌の脱力 ・ がんばりカードを活用して，できたらシールを貼付する。 ※シールなどを活用することで，児童の目的意識，意欲の向上，注意の持続を図る効果が期待される。  ・ ラ行音，ダ行音の入った単語カードを活用する。 ・ ○×カードを使用する。 ※クイズ形式にすることで，楽しい雰囲気ですぐに苦手な活動に参加するための配慮になる。  ・ ラ音とダ音，レ音とデ音，ロ音とド音をセットにして練習をする。 ・ ラ行音とダ行音の入った単語の書き取り練習をする。 
その他，指導のポイント	
・ 構音器官機能を高める練習では，できたら一つずつシールを貼ることで，意欲の持続を図ることができるように配慮する。 ・ 発音練習では，教員が児童の隣に並んで一緒に鏡を見ながら取り組む。 ・ 発音練習では，口の模型を見ながら，上顎のどこに舌をどのようにつけるのか，違いを見て判断できるように練習する。 ・ 書き取り練習では，イラストを見たり，教員の発する言葉を聞いたりして書き取りを行う。その際，発音と文字の正誤の確認を丁寧に行う。	

事例３）すらすらと音読することが苦手な児童への支援	
プロフィール	小学３年，音読が苦手である。
主な困難さ	・音読の際，つまったり文節の区切り以外でとまったりする。 ・独特の筆順で書いてしまう。 ・文章読解が苦手。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●聞き取り学習 ●点つなぎ ●言葉で区切る ●言葉を囲む ●穴埋め九九	・「きくきくドリル」和田秀樹監修，村上裕成著 文英堂① ※楽しみながら聞き取りの練習を行う。聞いたことを覚えたり，判断したり，答えを想像したりする学習を行う。  ① ・「knock knockの視覚発達支援」ドリル 株式会社スプリングス②  ② ・「多層指導モデルMIM 読みのアセスメント・指導パッケージ」学研③ ※逐字ではなく，かたまりとして語をとらえる練習をする。  ③ $8 \times \square = 40$ $6 \times \square = 54$
その他，指導のポイント	
・「きくきくドリル」は児童も集中して取り組み，導入（学習の構え）を整える上で効果があると思われる。 ・点つなぎは，点の位置と線の傾きなどを見比べるなどして確認しながら取り組むようにする。	

事例4)話を聞くことが苦手な児童への支援	
プロフィール	小学4年, ADHD
主な困難さ	・注視することが難しい。 ・じっくり考えて行動することが難しい。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●粗大運動／微細運動 ●課題学習	・5～10分程度、児童の状況に合わせて実施 ※準備運動・態勢を整えるなどの効果が期待できる。また、動きの大きさやスピードを変えることで調節の練習にもつながる。  ・「宮本算数教室の教材 賢くなるパズル 数字ブロック」宮本哲也 著, 学研 ※パズルのルールを理解する必要があるが、数字同士の関係を考えて空欄に適切な数字を当てはめるなど、ゲーム感覚で取り組むことができる。 
その他、指導のポイント	
・授業導入で、粗大運動・微細運動のトレーニングを実施することで、学習に対する態勢を整えることに繋がる。 ・初級→中級→上級の順番に実施する。初級から取り組むことで、パズルのルールを理解した上で、中級、上級に取り組めるようになる。 ・なるべく、一人の力で取り組めるようにするために、基本的には教員から教えることはせず、簡単なヒントを出すなどして、最終的に自分で解くことができた達成感を味わえるように配慮する。	

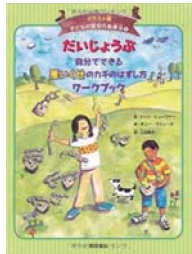
事例5) 特殊音節を書くことが苦手な児童への支援	
プロフィール	小学3年
主な困難さ	・ 基本的生活習慣が身についておらず、注意の持続が難しい。 ・ 拗音・拗長音・促音に誤りがあり、語彙が少ない。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
● 歯磨き ● 課題学習 ● 特殊音節の読み書き練習	・ 歯磨きの順番シートや口形を見せ、歯ブラシの持ち方を示し、見ながら歯磨きができるように配慮する ※不器用さの改善やボディイメージを高める対応としての目的や基本的生活習慣をつけるために行う。  ・ 拗音・拗長音・促音の課題プリント ※特殊音節部分の誤りを見つけて正しい表記に直す学習を行う。 ・ 絵カードと文字のマッチングや読む練習の後で書く練習を行う ・ 書いた文字を読み返すことで、間違いに気づけるようにする ・ 「読み書きが苦手な子どもへの〈つまずき〉支援ワーク」 竹田契一監修、村井敏宏著、明治図書① ・ 「フラッシュカードかな絵ちゃん」しちだ・教育研究所② ※視覚的なイラスト等で具体的なイメージを持ちやすくしながら、音韻意識や漢字の誤りのパターンに対応して学習を進める。 山 + 石 = 岩  ①  ② ● 粗大運動 ・ ボール運動、キャッチボール ※苦手なことに取り組んで来たことに対して、好きな活動を行うことで、リフレッシュ効果を期待し、次時への意欲につなげる。
その他、指導のポイント	
・ 児童の主体的な学習への取組を引き出すため、得意なことを学習活動に取り入れる。 ・ 歯磨き練習は手洗い場で鏡を見ながら指導する。 ・ 読み書き練習では、児童自らが正誤が確認できるように配慮する。	

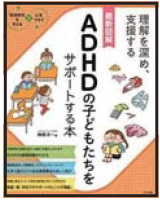
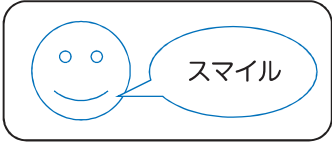
事例6) 語彙数が少なく、読み書きが苦手な児童への支援	
プロフィール	小学3年、語彙数が少なく、言葉の表現や読み書きが苦手である。
主な困難さ	・行や文字の読み飛ばし、文字の前後を入れ替えて読む。 ・普段の書く文字は間違いが多く、何度も消しゴムで消す。 ・考えを表現する際に、適切な言葉が思い出せず別の表現になる。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●トレーニング ・棒体操 ・目の体操 ・何が一番 ・言葉カード	・「背筋を伸ばす」、「腕に耳をつける」、「つま先にかかとをピタッとつける」などのそれぞれの動きに気を付けるように言葉かけをしながら授業を進める。 ※学習に向かう態勢を整えるために、体幹（姿勢）や腕・足の動きや位置を確認して学習に向かうようにする。 ・目の動きを確認することに留意する。 ※運動・動作の不器用さには目の動きも含まれる。 読みの困難さの原因の一つとしても大いに考えられるので、目の動きがスムーズにできるかどうかを確認することは大切なことである。 ・「多層指導モデルMIM 読みのアセスメント・指導パッケージ」学研の14枚程度のカードの読み上げをする。 
●漢字・音読課題	・覚えた漢字をiPadを用いて筆順を確認する。 ・正しい発音ではっきり発音するように促す。 ※教材アプリの使用の他に、写真や動画撮影機能を用いて、手本の提示や児童の取組のフィードバックとして活用することができる。
●遊びやゲーム (スリーヒントクイズ)	・形や色、素材、大きさ、用途、上位概念などについてヒントにする。 ※ヒントを基にして楽しく連想・発想する練習を行う。
●振り返り	・めあてを振り返り、ご褒美シールを貼り、次時への意欲付けをする。
その他、指導のポイント	
・客観的アセスメント結果の分析も踏まえて、個々の能力の落ち込みや、読み書きや語彙の力の状態を把握し、困難さの改善に向けた指導を行う。 ・自立活動の指導として、「人間関係の形成」、「身体の動き」、「コミュニケーション」と関連づけて指導を行う。	

事例7)文字・文章を書くことが苦手な児童への支援	
プロフィール	小学2年, LD
主な困難さ	・文字の形が整わない。 ・横画を増やす等, 文字の表記が正確でない。 ・話し言葉を書き言葉に変換できない。 ・マス目の外に文字がはみ出してしまう。 ・自分で文章を構成することが苦手である。 ・集中が続かない。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●身の回りのチェック ●お話タイム ●聞き取りチャレンジ ●手紙を書く ●感想タイム ●振り返り	・持ち物や身だしなみチェックを行う。 ・「声の物差し」を使用し, 適切な声量であいさつをすることを意識づけるようにする。 ※学習の冒頭で, 自分が守るべきルール（声量の大きさ）を確認することで, 授業中の意識付けを図る。 ・相手の児童のよいところをゲーム形式で出し合うことにより, 楽しい雰囲気の中, ほめ言葉を出しやすくする。 ・「親愛なる」, 「親友」といったキーワードを聞き逃さないよう促す。 ・児童が興味・関心を持ちそうな内容を示した手紙形式のワークシートを用意し, 意欲的に取り組めるように配慮する。 ・話し方・聞き方のモデルを確認し, 児童同士がお互いに感謝の気持ちを伝え合うことができるように言葉かけをする。 ・手紙をもらったことや書かれている褒め言葉に対して喜びをもつとともに, 「手紙」, さらに文字・文章のもつ魅力に気付くことができるように言葉かけをする。
	
その他, 指導のポイント	
・各活動ごとにヒントカードを用意しておき, 児童が自ら気付けるように配慮する。 ・児童自身の実態に応じたワークシートを選び, 確実に手紙を仕上げ, 達成感をもつことができるようにする。	

事例8)注意・集中が苦手な児童への支援	
プロフィール	小学6年，注意・集中が苦手でミスが多い。
主な困難さ	・既習漢字の読み・書きの習得が十分でない。 ・計算ミスや問題の視写間違いなど不注意によるミスがある。 ・周囲の音や動きなどの刺激に反応しやすく注意が逸れてしまう。 ・授業中，姿勢を保持することが難しく崩れやすい。 ・左右を間違えることがある。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●視空間認知のトレーニング／矢印体操 ●微細運動（指の体操） ●集中トレーニング ●注意力トレーニング ●聞き取りトレーニング ●既習漢字の学習	・左右の空間の安全確認をしてから始める。 ・「学ぶことが大好きになるビジョントレーニング」北出勝也著，図書文化社 ※体幹保持や腕や足の粗大運動を通して，ボディイメージを高めることをねらう。 ・10円硬貨つまみ→ペットボトルの蓋の開閉→ボタンかけ→こま回し ・サーキット形式で行い，楽しんで取り組めるようにする。 ・リラックス寝型姿勢，着席姿勢 ・身体をのびのびと伸ばし，リラックスできるような言葉かけをする。 ・「教室で使えるコグトレ」宮口幸治著，東洋館出版社 ・ワークシートに示されたイラストの中から，指定したものにチェックを入れる。 ・「きくきくドリル」和田秀樹監修，村上裕成著，文英堂 ・「漢字九九」学研 ・パーツ（部首）表を用いて，部首を覚えたか，確認できるよう，部首名を隠して唱えるようにする。
その他，指導のポイント	
・児童の注意・集中が持続できるように，リラックスして楽しみながら取り組めるように配慮する。 ・自身が取り組んだ課題を振り返ることを通して，不注意によるミスを減らそうとする意識につなげられるようにする。	

事例9) コミュニケーションが苦手な児童への支援	
プロフィール	小学3年
主な困難さ	・言いたいことが思うように言えない。 ・人前で話をするときに何もできなくなる。
授業実践例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●好きな活動／自由遊び ●発声練習 ●ソーシャルスキルトレーニング	・体ほぐしの運動…平均台ジャンケン, キャッチボール, ケンケンパ, すもう, なわとび, バッティング ・自由遊び…トランプ, 折り紙, 宝探し, にらめっこ, あっち向いてホイ ・ボール吹き, シャボン玉, 発表の練習, 音読 ・「SSTボードゲーム なかよしチャレンジ」クリエーションアカデミー, 監修：本田恵子（早稲田大学教育学部教授）   ・「サイコロジゲーム 小学生版」クリエーションアカデミー, 監修：本田恵子（早稲田大学教育学部教授）  
その他, 指導のポイント	
・2～3人の少人数で一緒に活動し, 他者と関わる運動や遊びを多くすることで, 関わりに対する緊張を和らげたり, 慣れたりすることをめざす。 ・児童が好きなことや得意なことをして活動の意欲を高め, リラックスして話をしやすい状況にすることに努める。 ・ソーシャルスキルトレーニングで, 日常に問題が起こりそうな場面を認識して対処できるスキルが身につくように配慮する。自分の気持ちや考えを話しやすい雰囲気作りを心がける。	

事例10) 気持ちのコントロールや切り替えが苦手な児童への支援	
プロフィール	小学5年, 気持ちのコントロールや切り替えが難しい。
主な困難さ	・ 気持ちのコントロールや切り替えが苦手で突発的な行動をしたり, 攻撃的になったり, 悲観的になったりする。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●今週のニュース ●アンガーマネジメントの学習 ●チョイス (選択課題)	・ 1週間を振り返り, 知らせたいことや伝えたいことを話す。 ・ 「イラスト版子どもの認知行動療法2 だいじょうぶ自分でできる怒りの消火法ワークブック」ドーン・ヒューブナー著, ポニーマシューズ絵, 上田勢子訳, 明石書店① ・ 「イラスト版子どもの認知行動療法6 だいじょうぶ自分でできる悪いくせのかぎのはずし方ワークブック」ドーン・ヒューブナー著, ポニーマシューズ絵, 上田勢子訳, 明石書店② ※自己の心情の状況や場面ごとにとどのような判断や行動をする傾向にあるかを自己理解するとともに, 適切な対応の仕方について学習することを図る。   ① ② ・ イラストを描く, パズルをする, ツイスターゲーム, オセロゲームをする, 神経衰弱/絵合わせゲームをする。
その他, 指導のポイント	
・ 他校通級のケースで, 児童の体調などの状況の把握, 普段の学校生活の様子を知る手がかりとして連絡ファイルは重要である。 ・ ワークブックは, 言葉や文章で書く部分とイラストで描く部分があるようにする。 ・ 児童の好きなことや得意分野を尊重し, 意欲的に取り組めるように配慮する。	

事例Ⅱ) 怒りを抑えることが苦手な児童への支援	
プロフィール	小学6年，自閉症スペクトラム
主な困難さ	・思い通りにならないとき，激しく衝動的に怒ってしまう。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
● 今日一日の話 ● 相手の気持ちを考える ● ソーシャルスキルトレーニング ● 選択課題	・児童が当日一日のことを話し，教師が共感的に聞くことで，リラックスできるようにする。 ・「U-SST ソーシャルスキルワーク」日本標準 ※相手にも自分と同じ感情があるということを知り，相手も自分も互いによい気持ちで関わることに ついて学習する。   ・怒りの仕組みや衝動的に怒らないスキル（深呼吸，数を数える，歌を歌う，ひとつのことに気持ちを集中させる，タイムアウト，怒りを数値化する，魔法の呪文，セルフトーク，ストレッチ等）を取り扱う。 ・「イラスト版子どものアンガーマネジメント」篠真希・長縄史子著，合同出版① ・「最新図解ADHDの子どもたちをサポートする本」榊原洋一著，ナツメ社②    ① ② 手持ちカード ※自分自身で実際にテーマに沿った適切な行動をやってみるにより，経験的な理解を高める。 ・すべき課題が終了した後，自分で選択した活動を行うようにする。
その他，指導のポイント	
・アンガーマネジメントでは，自分のできそうなスキルを試し，怒りを抑える練習をする。アンガーログを書き，自分の中の「～べき」を取り除くようにする。 ・児童の好きなキャラクターに吹き出しをつけたカードをつくり，怒りそうなとき，パニックになったときに見て，気持ちを切り替えるように使用する。	

事例12)自己理解・他児との円滑な人間関係を築くことが困難な児童への支援	
プロフィール	小学4年, ADHD
主な困難さ	・ ルールを守ることができない。 ・ 友達の気持ちを読み取ることが難しい。 ・ 周囲の刺激に影響されて、自分の行動をコントロールすることが難しくなる。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●SST	・ 認知的側面…相手の状況や感情の読み取り, ルールについての知識 ・ 行動的側面…対人場面での適切な行動の仕方 ・ 感情的側面…感情の適切なコントロールの仕方 ・ 発達段階に合わせての自己理解 ・ 「みんなのためのルールブック」ロン・クラーク著, 亀井よし子訳, 草思社① ・ 「マンガでわかるよのなかのルール」横山浩之著, みずたまり漫画, 小学館②  ①  ②
その他, 指導のポイント	
・ 市販の手のひらサイズのノートブックを「自分の生活にあったルールブック」とする。1ページ目に『これは生活するために大切なことを書いたルールブックです。』と書いておく。自分で考えながらルールブックに書き込むことは, 児童本人の意識付けに効果が期待される。 ・ 通級の指導時に, できていることを称賛したり, 必要なことを書き足したりする。 ・ トラブルがあったときは, 児童から聞き取った内容を目の前で時系列に用紙に書き込む。その際, そのときどきの本人の言動や気持ち, 相手の児童の行動などを分かりやすくイラストにして示し整理をする。起きた出来事や内容について整理して視覚化することで, 自分自身がどうすべきだったか反省できることを増やしていけることを目指す。 ・ 常に, 在籍学級の担任や保護者とも共通理解を図り, 学級での様子や家庭での生活の様子など, 常に情報交換することになっている。	

事例13) 対人関係がうまくいかずトラブルを起こす生徒への支援	
プロフィール	中学2年，自閉症スペクトラム
主な困難さ	・ 苦手意識のあることや興味のないことには取り組もうとしない。 ・ 勝ち負けにこだわりがあり，負けると相手や周りの環境のせいにして，攻撃的になる。 ・ 自分の気持ちや思いをうまく伝えることができず，パニックになることもある。 ・ 相手の気持ちを理解しているつもりであるが，独特のとらえ方や被害者意識をもってしまう。
授 業 実 践 例	
学 習 活 動	実 施 内 容
●挨拶練習 ●音読 ●聞くトレーニング ●パズル ●表情トレーニング ●お話タイム ●SSTボードゲーム ●作文，お話づくり	・ 目線の位置，声の大きさ，正しい姿勢について確認する。 ・ 読む速さ，間の取り方を意識するように促し，注意点を確認する。 ・ 注意力を高めることを図る。 ・ 「きくきくドリル」和田秀樹監修，村上裕成著 文英堂 ・ 「shape by shape」(C)ThinkFun Inc. ※パズルは，実際に手や指を動かしながら，思考するゲームです。特に，パーツの部分と部分について，全体と部分についてそれぞれ考える力を養うことをめざします。 ・ 表情カード，手鏡を用いて自分の表情をチェックする。 ・ トラブルや悩みがないか毎回確認し，話を聞く。 ・ 学校生活で起こりうるトラブルや物事のとらえ方についてすごろくゲーム式に体験する。 ・ 「フレンドシップアドベンチャー」クリエイションアカデミー ・ イラストを見て話の順序を考え，会話文入れや文章化をする。
その他，指導のポイント	
○生徒の苦手意識や抵抗感を減らし，自信を持って取り組めるよう複数活動を準備し，生徒自身に選択・決定する場を設ける。 ・ 無理をさせないように配慮する（一つの活動時間は短時間とする）。 ・ 生徒の気持ちに寄り添う（生徒の考えや思いをいったん受け止め，認める）。 ・ 本当はどうなりたい，どうしたいと思っているのかを引き出す（適切な言葉や行動にすることが伴わないだけで，心の内にある思いに目を向ける）。 以上の活動を継続実施し，自分でできることや分かることを増やすことを目指す。実際に，他者との会話や関わる際に，経験した活動やスキルが生かされていくことを実感できるようにして，自信を持てるようにする。授業の終末では，ゲーム活動を行い，勝ち負けにかかわらず，相手を思いやる場を設ける。片付けまで協力して行い，「楽しかった」，「またやってみたい」という気持ちで終わることができるようにして，次時へのモチベーションにつなげる。	



実践紹介) 徳島県立徳島中央高等学校における 通級による指導の取組例

【基本方針】

＜対象生徒＞

本人が学校生活や日常生活において困難を感じている生徒の中で学校が通常の教育活動に加え、通級による指導を行うことが適当と考える生徒

【対象生徒の決定の流れ】

①生徒・保護者の希望について、案内による募集

②学年会における検討

```
graph TD; A[①生徒・保護者の希望について、案内による募集] --> C[校内委員会における審議]; B[②学年会における検討] --> C; C --> D[本人・保護者と担任・通級担当者との面談を行い、意向を確認して承諾を得る];
```

校内委員会における審議

本人・保護者と担任・通級担当者との面談を行い、意向を確認して承諾を得る

【通級による指導の実施】

- ・ 選択教科・科目に替える形で実施する。
- ・ 2年次から4年次の選択科目内での実施となる。
- ・ ただし、1年次に必修科目の単位が取得できなかった場合は、通級による指導を選択できない可能性がある。

実践紹介) 徳島県立徳島中央高等学校における 通級による指導の取組 (令和元年度)

ライフスキルトレーニング (2年次)

学校生活をスムーズに送ることができることを目指す。

キャリアアップトレーニング (3年次)

働くための知識や技能を身につけることを目指す。

	月	ライフスキルトレーニング A	備考
1 学期	4	オリエンテーション 安心できる関係づくり	
	5	お互いを理解し合う活動 調理実習	
	6	調理実習 メモをとりながら話を聞き取る練習	
	7	調理実習 メモをとりながら話を聞き取る練習	
	8	就業体験	希望者
2 学期	9	自分の気持ちを伝えよう	
	10	自分の気持ちを伝えよう	
	11	感情コントロールについて学ぼう	
	12	感情コントロールについて学ぼう	
3 学期	1	自分のことを知る活動	
	2	自分のことを知る活動	
	3	自分はどうな人か紹介してみよう	

学期	月	週	年間計画	学習内容
1 学期	4	3	オリエンテーション 自己理解	オリエンテーション・自分データ作り
		4		自分データ作り・就職までのプランニング
		1	プランニング ビジネスマナー	就職までのプランニング 認知機能を高める学習
		2		会社見学のコツ・身だしなみ 認知機能を高める学習
		3		身だしなみ 認知機能を高める学習
		4		身だしなみ 認知機能を高める学習
		1	コミュニケーション 態度を育てる	面接の受け方 認知機能を高める学習
		2		面接対策 認知機能を高める学習
		3		面接対策 認知機能を高める学習
		4		面接対策 認知機能を高める学習
		5		面接対策 認知機能を高める学習
	7	1	コミュニケーション態度を 育てる	面接対策 認知機能を高める学習
		2		面接対策 認知機能を高める学習
		3		面接対策 認知機能を高める学習
		4		面接対策 認知機能を高める学習
2 学期	9	1	コミュニケーション態度を 育てる	面接対策 認知機能を高める学習
		2		面接対策 認知機能を高める学習
		3		面接対策 認知機能を高める学習
		4		面接対策 認知機能を高める学習
		1	社会形成能力を高める	話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		2		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		3		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		4		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		5		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
	10	1	社会形成能力を高める	話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		2		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		3		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		4		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		5	社会形成能力を高める	話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		6		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		7		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
		8		話し合いのコツ 認知機能を高める学習
3 学期	11	1	ストレスマネジメント アンガーマネジメント	ストレスマネジメント アンガーマネジメント
		2		ストレスマネジメント アンガーマネジメント
		3		ストレスマネジメント アンガーマネジメント
		4		ストレスマネジメント アンガーマネジメント
	12	1	これまでの学習を 振り返る	面接対策 認知機能を高める学習
		2		面接対策 認知機能を高める学習
		3		面接対策 認知機能を高める学習
		4		面接対策 認知機能を高める学習

【その他の取組】

- ・ 個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用しています。
- ・ 「ともにまなぶ」 高校生活応援事業による特別支援教育支援員を活用しています。
- ・ 必要に応じて、特別支援教育巡回相談員とも連携しながら、指導・支援を行っています。
- ・ **外部専門家**とも連携し、指導・支援に関する指導・助言をいただいています。

「話し合いシート」で
生徒の情報を共有



「生徒プロフィール
チェック表」を
基に長期目標・
短期目標を設定



「行動チェック表」の活用・
実践を通して、毎月、担任・
副担任、通級による指導担当
教員などで情報共有、振り返
りの実施

通級による指導の令和元年度年間スケジュール

4月	・「通級による指導」開始 ・個別の指導計画作成 ・教職員研修「特別な支援を必要とする生徒に関する共通理解」 ・教育相談（巡回相談）	10月	・とくしま地域若者サポートステーションの出前授業
5月		11月	・校内委員会（次年度の受講生徒について①） ・教育相談（巡回相談） ・徳島地域若者サポートステーションの出前授業
6月	・専門家によるコンサルテーション① ・第1回通級指導専門性充実検討会議	12月	・保護者・受講希望者との面談 ・教育相談（巡回相談） ・2学期校内報告（取組・成果・課題等） ・高校通級に関する先進地視察①② ・通級による指導担当者研修
7月	・通級による指導担当者研修 ・自立活動の受講希望調査 ・保護者・受講希望者との面談 ・1学期校内報告（取組・成果・課題等）	1月	・専門家によるコンサルテーション③ ・第2回通級指導専門性充実検討会議 ・高校通級に関する先進地視察③④
8月	・保護者・受講希望者との面談 ・教育相談（巡回相談）	2月	・校内委員会（次年度の受講生徒について②） ・年間の校内報告（卒業対象者の取組・成果・課題等） ・特別支援教育実践研究報告会
9月	・教育相談（巡回相談） ・専門家によるコンサルテーション② ・R2教育課程の提出 ・行動チェック表作成 ・教職員研修「高等学校で取り組むポジティブな行動支援ー通級による指導の活用ー」	3月	・個別の教育支援計画・個別の指導計画の評価等 ・年間の校内報告（取組・成果・課題等）

事例14) 自己評価の低い生徒に対する支援

対象	自己評価が低い生徒
目的	①自分の得意・好きなことに目を向け、自己肯定感を高める。 ②認知機能を高める学習の活動で、決められた枚数や内容をすることによって、「できた」成功体験を積み重ねて、自信をつける。
実施内容	①私のトリセツ ②認知機能を高める学習
授業展開	①「私の得意・好きなこと」のワークシートを完成させる。 ②認知機能を高める学習の活動を5枚（種類）する。
指導のポイント	【①について】 ・他の生徒や教員からのポジティブな評価を入れ、認められる経験を積めるようにする。 【②について】 ・実施する枚数（種類）が一定の数を超えたら何らかのメリットが得られるなど、多くこなしたくなる仕掛けを作っていく。一定の枚数をこなせるようになると、徐々に支援をフェードアウトしていく。こうすることで、ひとりて取り組む習慣を身につけ、学習や活動を頑張ろうとすることを積み重ねていく。

通級による指導の取組を通じて

- ・「行動チェック表」を活用することで、指導目標を明確にすることができ、生徒の行動改善の状況把握や指導目標が適切かどうかの検討もしやすくなった。
- ・実際に記録をとってみることで、視覚的に結果を捉えることができ、生徒も教員も相互に成果をわかりやすく感じることができた。
- ・HR担任と定期的に情報交換し合うことによって、対象生徒の支援体制を強化することにつながった。そのことが功を奏して、生徒自身が学習に対して前向きに取り組めるようになってきた。

参考文献・引用文献

- ・ 小学校学習指導要領(文部科学省)
- ・ 小学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省)
- ・ 中学校学習指導要領(文部科学省)
- ・ 中学校学習指導要領解説 総則編(文部科学省)
- ・ 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(文部科学省)
- ・ 改訂第3版 通級による指導の手引き(文部科学省 編著)
- ・ 発達障害を含む障がいのある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン(文部科学省)
- ・ 教育支援資料(文部科学省)
- ・ 高等学校教員のための「通級による指導」ガイドブック(国立特別支援教育総合研究所 編著)
- ・ 「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック(全国特別支援学級設置校長会 編著)
- ・ 通級指導担当者ガイドブック(山口県通級指導担当者専門性充実検討会議)
- ・ 「チーム学校」として取り組むための通級による指導ガイドブック(愛媛県教育委員会)
- ・ 通級による指導ハンドブック(長野県教育委員会)
- ・ 通級による指導の手引き(秋田県教育委員会)
- ・ 通級による指導ハンドブック～通級担当の1年間～(福岡県教育センター)
- ・ 通常の学級に在籍している特別な支援を必要とする子どものチェックシート(徳島県教育委員会)
- ・ 個別の指導計画を作成するために(徳島県教育委員会)
- ・ 個別の教育支援計画を作成するために(徳島県教育委員会)

第5章実践事例で紹介した文献、教材・教具

- ・ 「きくきくドリル」和田秀樹監修，村上裕成著，文英堂
- ・ 「knock knockドリル 視覚発達支援ドリルシリーズ」大阪医科大学LDセンター アットスクール教育研究部共同開発 株)スプリングス
- ・ 「多層指導モデルMIM読みのアセスメント・指導パッケージ」学研
- ・ 「宮本算数教室の教材 賢くなるパズル 数字ブロック 初級・中級・上級」宮本哲也著，学研
- ・ 「漢字九九」学研
- ・ 「読み書きが苦手な子どもへのくつまずき>支援ワーク」村井敏宏著，明治図書
- ・ 「フラッシュカード かな絵ちゃん」しちだ・教育研究所
- ・ 「学ぶことが大好きになるビジョントレーニング」北出勝也著，図書文化社
- ・ 「教室で使えるコグトレ」宮口幸治著，東洋館出版社
- ・ 「1日5分！教室で使える漢字コグトレ」宮口幸治著，東洋館出版社
- ・ SSTボードゲーム 「なかよしチャレンジ」クリエーションアカデミー，監修：本田恵子（早稲田大学教育学部教授）
- ・ 「サイコロジゲーム 小学生版」クリエーションアカデミー，監修：本田恵子（早稲田大学教育学部教授）
- ・ 「イラスト版 子どもの認知行動療法2 だいじょうぶ 自分でできる怒りの消火法ワークブック」ドーン・ヒューブナー著，ポニーマシューズ絵，上田勢子訳，明石書店
- ・ 「イラスト版 子どもの認知行動療法6 だいじょうぶ 自分でできる悪いくせのかぎのはずし方ワークブック」ドーン・ヒューブナー著，ポニーマシューズ絵，上田勢子訳，明石書店
- ・ 「U-SSTソーシャルスキルワーク」 日本標準
- ・ 「イラスト版 子どものアンガーマネジメント 怒りをコントロールする43のスキル」篠真希・長縄史子著 合同出版
- ・ 「ADHDの子どもたちをサポートする本」榊原洋一著，ナツメ社
- ・ 「みんなのためのルールブック」ロン・クラーク著，亀井よし子訳 草思社
- ・ 「マンガでわかる よのなかのルール」横山浩之著，みずたまり漫画 小学館
- ・ 「shape by shape」(c)ThinkFun Inc.

通級による指導ハンドブック

令和２年３月発行

〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字東谷１－７
徳島県立総合教育センター 特別支援・相談課
電 話 088-672-5200
E-mail tokubetsushien@mt.tokushima-ec.ed.jp

※この冊子は、文部科学省委託事業「発達障害に関する通級による指導担当教員等専門性充実事業」により作成しました。